

農作物の栽培と農薬について

農薬がなぜ使用されるのか？
もう一度考えてみましょう！

山口県農林水産部

農薬とは？

農作物等を加害する動植物の駆除や防除などに用いられる資材を農薬という。

(参考)農作物等とは？

栽培の目的や肥培管理の程度の如何を問わず、人が栽培している植物の総称

* 花壇の草花、庭園樹、盆栽、街路樹、ゴルフ場の芝、山林樹木も含みます。

農薬の主な種類

殺菌剤

殺虫剤

植物成長調整剤

除草剤

展着剤

その他(忌避剤等)

約4,800品目

(成分は約540種類)

農薬はなぜ使われるのか？

1. 農作物は人類の嗜好や目的にあうよう「人為的に作りだされた植物」で、集約的に、しかも必ずしも適した条件で栽培するとは限らないため、病虫害や雑草の被害にあいやすい。
2. 消費者に農作物を供給するため「収穫量の安定と品質の向上」が求められるが、日本は高温多湿で病虫害や雑草の発生が多い。
3. 消費者や業者は「規格のそろった農産物」を求め、外観の悪いものや虫食いは売れない。

キュウリの病害の例



つる割病



うどんこ病



灰色かび病

トマトの病害虫の例



青枯病



オオタバコガ

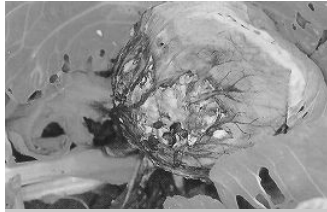


モザイク病

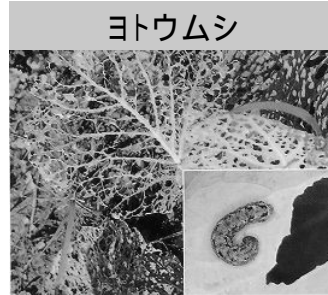


かいよう病

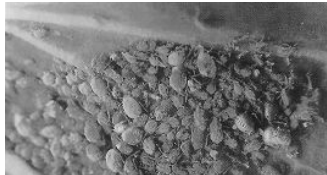
キャベツの病害虫の例



菌核病



ヨトウムシ

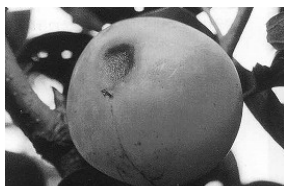


アブラムシ

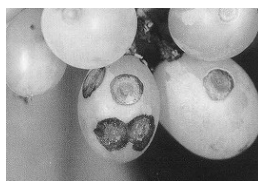


アオムシ
(モンシロチョウ)

果樹の病害虫の例



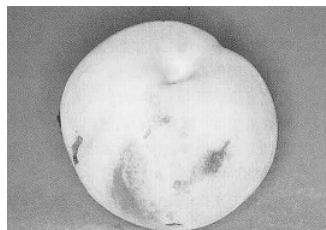
柿の炭そ病



葡萄の黒とう病



クリシギゾウムシ



モモノゴマダラメイガ



かんきつ類のかいよう病

防除の効果

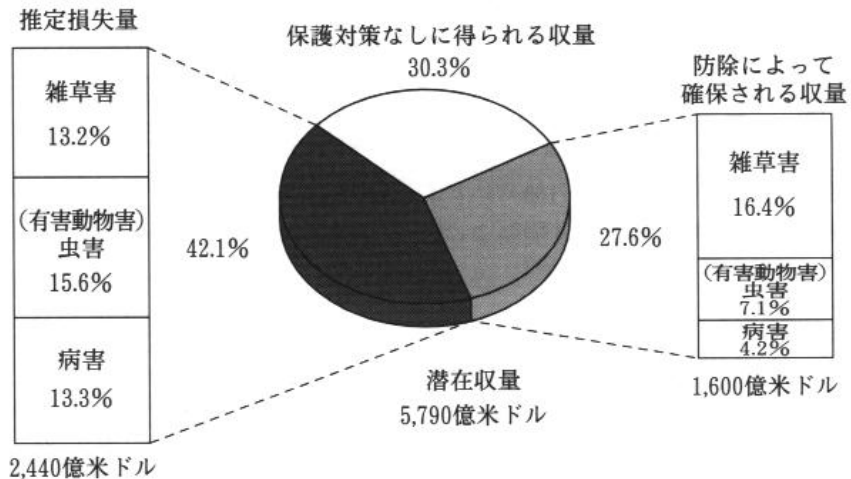


図 1-1 全世界における病虫害・雑草による推定損失量と防除効率 (Oerke (1994))

病虫害から農作物を守るには？

病虫害・雑草の被害を回避する手段

病虫害や雑草を発生させない対策

品種や栽培管理が中心

発生した病虫害や雑草を駆除する対策

農薬による対処が主体

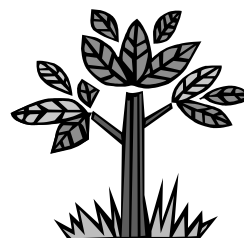
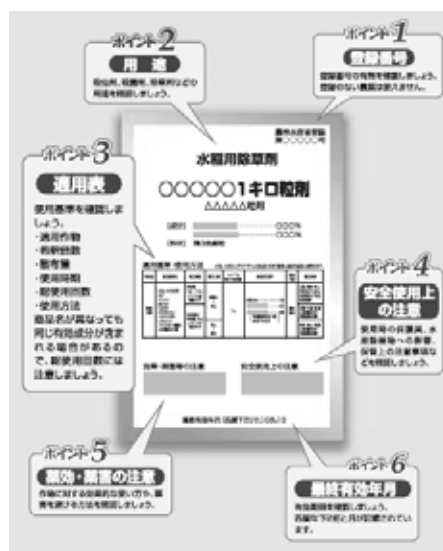
病虫害や雑草の発生が少なければ、農薬による
対処も少なくてすむ

化学農薬に依存しない防除方法

耕種的防除法、物理的防除法、生物的防除法

生物農薬や性フェロモンなどの生物的防除が最近注目

農薬は正しく使いましょう



農薬は使用基準に従って正しく使えば、安全です。

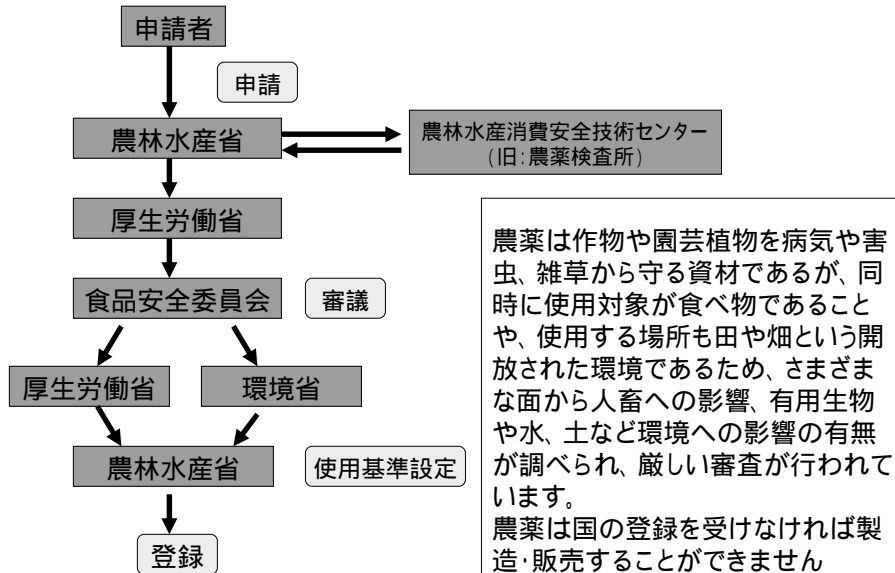
安全性が確認されている農薬

農林水産省登録第

号



農薬が登録されるまで



生産者は履歴記帳の取り組みを始めています

安心・安全な農産物を生産するため、
農薬使用状況の記録も始めています。

- ・農薬を使用した年月日
- ・農薬を使用した場所
- ・農薬を使用した農作物等
- ・使用した農薬の種類又は名称
- ・使用した農薬の使用量又は希釈倍率



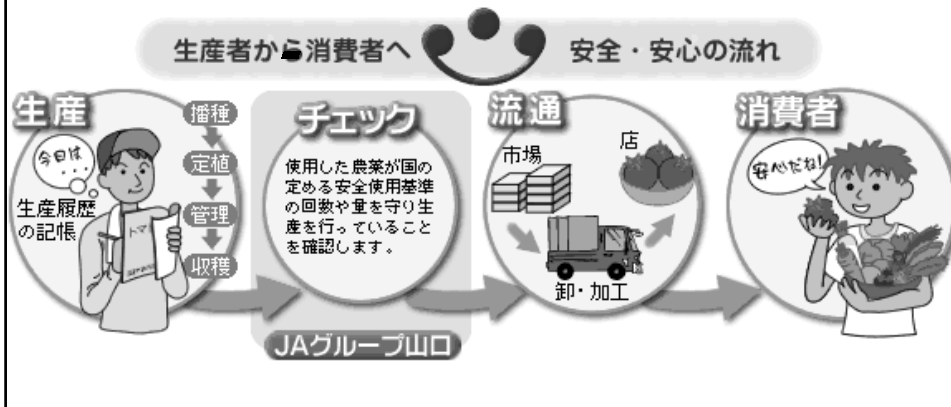
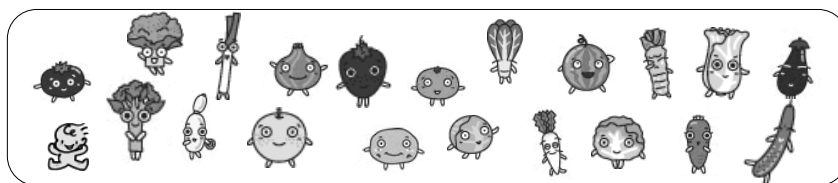
やまぐち食の安心・安全研究センター








JAグループ山口では、生産履歴記帳運動につづく取り組みとして、農産物に農薬が残留していないか収穫・出荷前に自主検査を行う目的で、平成17年2月に「農産物検査センター」を設立しています。

さらに、平成17年4月には「山口県生協連」「コープやまぐち」「JA山口中央会」「JA全農やまぐち」の4者で協力し、社団法人『やまぐち食の安心・安全研究センター』を設立して、検査体制を発展、強化しています。

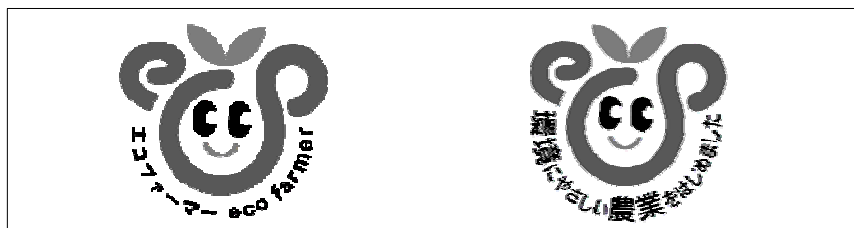
JAグループ山口の農産物



農薬の使用を減らす取り組みの例

耕種的防除	合鴨やコイによる除草	
物理的防除	マルチ栽培	
	忌避灯(防蛾灯)	
	トンネル資材の被覆	
生物的防除	フェロモン剤での誘引	

エコファーマー



平成11年度に制定された「持続性の高い農業生産方式の導入に関する法律」において、エコファーマーの制度ができました。エコファーマーとは、堆肥等による土づくりを基本とした化学肥料、化学農薬の使用量を低減(30%)する生産方式(持続性の高い農業生産方式)の導入計画を、県知事に認定された農業者の愛称です。

エコやまぐち認証農産物

エコやまぐち認証農産物ってなあに？ 化学農薬とは？ 化学肥料とは？

このマークはどういうもの？

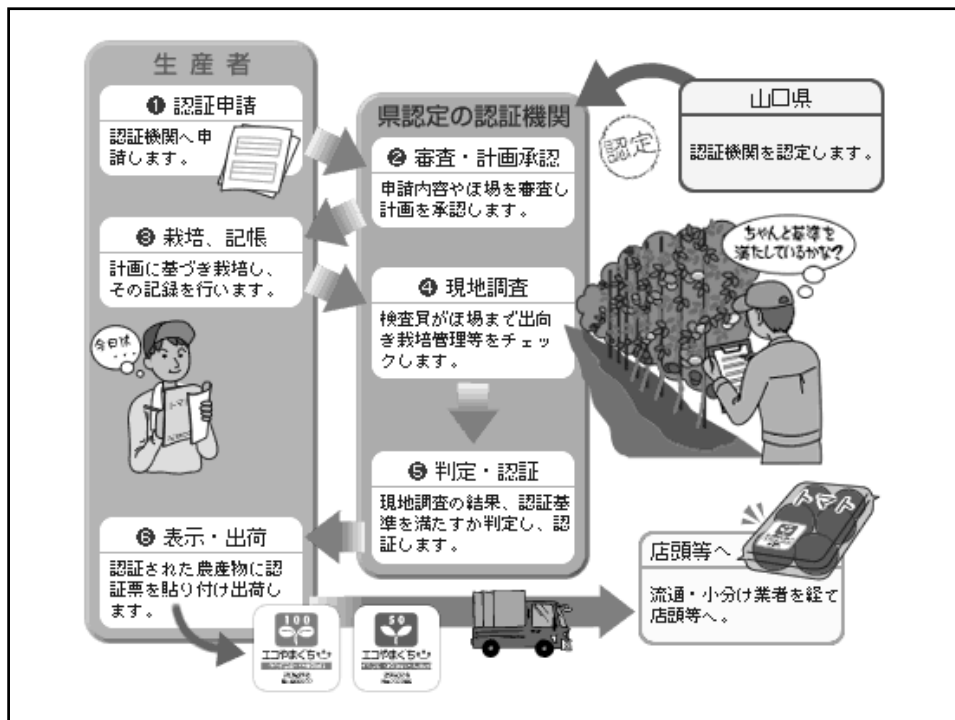


無化学農薬・無化学肥料
栽培農産物



化学農薬・化学肥料50%
以上削減栽培農産物

「エコやまぐち認証制度」は、山口県内で生産される農産物のうち、通常の栽培方式に比べて、化学農薬と化学肥料の使用量を50%以上削減した農産物、無化学農薬・無化学肥料で栽培された農産物を認証する山口県独自の制度です。このマークは認証を受けた農産物に貼られています。



山口県では、化学農薬だけに頼らない 農産物づくりに取り組んでいます

	平成18年度	備考
エコファーマー認定者数	1,841名	中四国1位
循環型農業産地	88産地	
エコやまぐち農産物認証	81件	497名

この取り組みは、生産者だけではできません。
農産物を買われる消費者、県民のみなさんの「地産・
池消」に対するご理解とご協力をお願いします。

